

「リーダーの心得」

夏期学級開催の目的を知ろう

●基本的には

「神さまに親しみ、規律正しい団体生活の中で、感謝の心を育もう」

●具体的には

- 1、神性をはぐくむ
- 2、大本について学ぶ
- 3、正しい生活のあり方を修得する
- 4、明るく元気に過ごす
- 5、共同連帯感を培う
- 6、美しい友情を深める
- 7、創造的な考え方を養う

夏期学級は、その開催の目的を、一言でいうならば「神性の開発」にあります。世間のサマーキャンプとの大きな違いも、そこにあります。

「神性の開発」を基本に、各機関によって、それぞれ目的とする内容は違うかもしれませんが、大事なことは、リーダーをはじめ機関全体で目的をしっかりと定め、それを共有するという事です。

とりわけリーダーには、参加者に何を伝えたいか？ 何を持って帰ってもらいたいのか？ それを明確にしておく必要があります。

どのような少年に導いたらよいか？

- 1、「魂の開発」つまり「生きること（生命）の尊さを喜びとして感じる」ように導く
- 2、魂の本性・神性の芽「美・善を好む」を、より美しい善い方向へ向上させる
- 3、心配ごと、苦しみ、悲しみは善意に解釈し「向上の糧」として、強い心を培う

◎基本的な方法は

- 1、参加者に場（フィールド）と機会を与える
- 2、個々の参加者の性格を知る
- 3、そしてそれを引き出し高めていく努力
- 4、それにはリーダーの信仰的愛情が不可欠（リーダーは自分の役割に自信と使命感を持つ）

◎具体的には

- 1、ムードを利用して参加者たちの自主性を引き出す
- 2、ムード作り（演出）を重視し、リーダー自身がその気になる（自らも楽しみ、自主的に努力できるムードをつくる）
- 3、ムードが悪い場合は「参加者たちの自主的努力で良くする」ことの重要性を指導する

リーダーの心得

- 1、おもしろく、何でも話せる人だという印象を与える
- 2、何事にも上手にやらないこと。時には失敗もしてみせて、気持ちに余裕をもたす
- 3、やさしく、にこやかに子供と接する
- 4、悪いことはあとからそっと一人だけのとき注意し、良いことは全員の前でほめてあげる
- 5、はじめから班内で約束事をたくさんつくらずに、まず一つが実行されたところで、だんだん約束事を増やしていく
- 6、服装も子供から好感をもたれるようにスッキリした服装が望ましい。特に神前礼拝の時は、キチンとする

- 7、班員の中に仲間外れを絶対つくない
- 8、特定の班員と親しくしたり、話しかける回数を多くもたないこと
- 9、班長、生活係にも出来るだけ指導権を持たせ、自主性を育てる
- 10、けじめをつける。ここがどういう場所であるか、常に考えて行動する
- 11、元気でつらつとした気持ちと態度
- 12、祈りの大切さを伝える
- 13、子供はリーダーをよく見ている。子供に注意するだけでなく、自分も言心行一致の生活をしなくてはならない。
自分のできる最高・最善の言心行

子供との接し方

- 1、小さい子供には、とくに手を握ったり、頭をなでてやったり体にふれてやるとよい
- 2、班員の名前を早く覚えること。名を呼ぶと、親近感がわく
- 3、一人ひとりに気を配って積極的に話しかけてあげる。自分も関心されているということで安心する
- 4、テキストの注意事項など、子供に一つずつみんなに聞こえるように、大きな声で読み上げること。班の連帯感を築き注意事項確認のためによい
- 5、ジェスチャー交じりで話しをしたり、時にはおどけてみせるなど、親しみを持ってもらえるように、いろいろな工夫をして子供に接する
- 6、班員に、ほかの子供の悪口を絶対に言ってはいけない。つげ口をしてきても、見直し聞き直してやるのが大切である
- 7、子供たちを見おろすような位置から話しかけてはいけない
悲観的な暗い言葉づかいをしないことも大切です。「ダメ」とか「いけません」とかの禁止・注意の否定的な言葉はあまり使わず（注意事項を説明する場合は別）「そこはよくわからなかったみたいだね。もう一度説明するからよく聞いてね」など、問いかけるようにするとよい。

班別話し合いと班員の指導

開講式後の、班別話し合いでは、次の事柄に注意しながら話し合いを進めます。

- 1、班員の自己紹介
- 2、班の名称をみんなで考える（低学年）
- 3、班長、記録係、生活係をみんなで決め（できれば全員を係りにつける）係りの役割を十分認識させる
- 4、日程を簡単に説明する
- 5、班の目標を決める
- 6、班の目標、注意事項を反復させる
- 7、貴重品をあずかる

◎班員の指導

団体生活の原則的なことは、途中から改めさすことはむずかしいので、開催の始めに子供によく認識させておきます。次の事柄をよく説明しましょう。

- 1、夏期学級は、よい子になるための場であり、単なる遊びの場ではないということ
- 2、団体生活であるから他人に迷惑をかけず、家庭と同じようなわがままな言動をしてはいけないこと
- 3、リーダーや班長が集合をかければ、すぐに集まること。班行動をとること高学年では、日程の前半に班をまとめ、自主性を導き出し、後半は班員の自主性を尊重しながらも次第に注意すべき点はハッキリ注意し、ややきびしい生活指導を行います。なお、日程の後半にはリーダーの仕事（整列など）を班長に任せるようにしてもよいでしょう。

健康管理と食事について

◎健康管理について

- 1、リーダーは班員の健康状態について、つねに注意する
- 2、状態の悪い子（ゼンソクなどの持病をもっている子）は特に気をつける
- 3、班員の健康状態を常に執行部に連絡する

◎食事について

- 1、食事の前は、必ず手を洗わせる
- 2、ご飯やおかずが多すぎると思う時は、箸をつける前にとりわけるようにし、残飯や残菜を出さないようにする
- 3、ご飯の食べくらべをさせない（腹痛を起す）
- 4、お米一粒もそまつにしないように、食べた後も注意する
- 5、食事中は子どもはわりに心を開いて話すもの。気がかりな子供がいれば、その隣に座り、食事をしながら親しい関係をつくりだす
- 6、リーダーの許可なくお菓子やジュースなどの買い食いをさせないこと

自由時間の過ごし方

プログラムの合間にはちょっとした自由時間ができますが、この時間をダラダラ過ごすことなく、リーダーはこの時間を有意義に活用しましょう。

◎ゲームをする

班員同士の仲を良くし、班をまとめる上でたいへん有効なのは班でゲームをすることです。

ゲームも特別難しいゲームを用意する必要はなく、定番の「ナンバーコール」などの単純なゲームで十分盛り上がります。

もしゲームのネタが尽きてきたり、マンネリ化した時には、子供たちに、やりたいゲームを提案してもらったり、他の班と合同でゲームを行うのも一つの手です。

◎自由時間の話題

伝えるだけでなく、班員の話聞いてあげることもリーダーの大切な役割です。

自由時間には以下の話題を参考に班員の意見を引き出してあげましょう。

- 1、家庭について（保護者のこと、兄弟のこと、家庭生活のこと等）
- 2、神さまについて（朝夕拝のこと、お給仕のこと、月次祭のこと、家族の信仰等）
- 3、学校について（勉強・友だちのこと等）
- 4、人生について（自分の将来、偉人伝等）
- 5、社会について（世界の出来事、私たちの理想等）
- 6、趣味について（テレビ・マンガ・読書について、おけいこ事のこと等）

反省会（班別ミーティング）の持ち方

出口日出磨尊師さまのお示しの中に『為しつつ、省みつつ、悟りつつ、為しつつ』とありますが、反省心のある少年に導くことが大切です。

楽しい数時間をおくった後で、静かな場所を選び、みんなが腰をおろして目をとじ楽しかった「集い」を省みるのも大切なことです。

物事をなした後、絶えずそれを反省し悪かったところは改めるようにすることにより、魂は向上します。

特に一日の終わりには反省すべき点をいくつか上げて、子供たちの話し合いの中で、自主的に反省させるように導くことが大切です。

◎反省会（班別ミーティング）の持ち方

1、反省会は静かに行うこと。子供たちを興奮させると、なかなか就寝しなくなる。反省会を行う前に、輪読会などを行うとよい。

2、反省会は次のテーマで行うとよい。

- 今日一日で一番楽しかったことは？
- 今日一日で印象に残ったことは？
- もっとよい班にするには
- 今日の目標を守れたか？
- 明日の目標
- 明日の日程説明など

3、班内でよかった面と悪かった面のそれぞれを強調させると、班員の反省気分をぐっと盛り上げることができる。

中心を忘れないこと

教主さまは、平成16年11月21日に開催された「第101回全国青年部長会議」のごあいさつの中で「一番大切なことは中心を忘れないということです。どんな些細な行事であっても、まず初めに大神さまにご報告とご守護をお願いし、そして終わったら必ずお礼を申し上げる」「とにかく神さまのお光をいただいて何事もさせていただくことが大事です」とお示し下さいました。

神さまのご守護があればこそ、夏期学級のリーダーもさせていただくことが出来るのです。技術も大切ですが、リーダーに最も必要なのは信仰心です。

夏期学級の目的「神性の開発」を行うにも、まずはリーダー自身の神さまに向かわせていただく心・姿勢が大切になってくるのです。

しかし、それと同時にリーダーとしての現界的努力（事前の準備）も、もちろん必要です。

出口日出庵尊師さまは、お歌で「相当の苦心と努力のないとこへ神の光は流れざるなり」とお示し下さっています。

リーダーは中心を忘れず、努力をすれば必ずご守護があります。子供たちと共に喜びと感動を分かち合ひましょう。

元気に育て「神の子」たち

最後に「おほもと」誌平成4年7月号の四代教主さまインタビュー記事『元気に育て「神の子」たち』より、夏期学級についてのお示しの一部を転載させていただきます。

—— 昨年（平成3年）、夏期学級記念品として教主さまご染筆の色紙『朝夕のお祈り はきものの始末』をお下げいただきました。

四代教主さま 私は、その二点がきちんと身につけたいへん結構だと思います。大本の夏期学級ですから、朝夕のお祈りは、基本であって、それをはずしては意味をなしません。もう一点は、はきものの始末。簡単なようですが、これも実際に身につけることは、容易ではありません。

あれもこれも詰め込んだら子供はくたびれるし、嫌になります。基本的には、保育園でゆっくり遊ぶようなかんじでいいのです。そのかわり、一つ、二つの目標を決めて、それだけは完全にしてもらおう。ほかのことはいいけど、これだけは夏期学級でおぼえて帰ってください、というようにすればいいと思います。

—— 生活指導という点からはいかがでしょうか。

四代教主さま 先ほどの二点は、はずすことのできない大切な基本ですが、それ以外では、食事の仕方、お風呂の入り方、朝夕の「おはようございます」「おやすみなさい」のあいさつ。また「ありがとうございました」「すみません」の礼儀正しい言葉。ほんとうに日常的なことであり、人としての常識的なことですが、それをきちんと教えてほしいと思います。（後略）

—— 夏期学級の開催に際しては、青年部だけにとどまらず多くの人の協力が必要となっています。

四代教主さま 青年部を育て、指導していく上の人々の協力は必要ですし、積極的に手助けしてほしいと思います。しかし、それを受ける青年部のほうとしては「手伝って当たり前」という姿勢では困ります。それに対する感謝の気持ちを持ち、つね日ごろから手伝ってもらえるような信頼関係をつちかっておかなくてはならないと思います。

たとえば直心会、みどり会（現在の青松会）の人でも、家庭があるなかで、それを犠牲にして手伝いにきてくれているのです。それを忘れてはいけません。（後略）

—— 多くの人のご奉仕の上に成り立つ夏期学級であるだけに、行事をおろそかにするわけにはまいりませんね。

四代教主さま 大本の次代を担う子供たちは本当に大切です。青年期を過ぎて、信仰のことを親がいくら言っても聞いてもらえません。かえって反発するくらいでしょう。素直に聞いてくれるのは夏期学級に参加している年代までです。そこがいちばん大事な時期です。ですからお世話はたいへんですが、みんなで力をあわせてがんばっていただきたいと思います。

立派に育てることができたら、それは明日の日本の国に影響して来るものと思います。こうして育った一人ひとりが集まれば、大きな力になるのですから。